第41回市民の舞台 遠野物語ファンタジー お月お星の涙

第41回市民の舞台・遠野物語ファンタジー「お月お星の涙」(同実行委員会主催)は2月20・21の両日、みやもりホールで上演されました。家族愛を描いた物語に、800人の観客が涙しました。

写真／姉妹が父から教わった唄を奏でるシーン。美しい音色が会場に響き渡り、観客をファンタジーの世界に誘った

【あらすじ】

宮守のとある集落に、仲良く暮らす異母姉妹のお月とお星。村は数年続く凶作に苦しみ、父の助松は出稼ぎに行くことに。助松がいなくなった後、母のサトは、実の子であるお星を愛するあまり、先妻の子・お月に辛く当たるようになり、ついには山に捨ててきてしまう。お星は、姉を追って山に入り、無尽和尚のおかげで再会する。

山を下りた二人は笛と歌声がお殿様に認められ、お城に上がることになった。ある日、二人の美しい唄が父母の耳に届き、家族は再び一つになる。

写真／姉妹と父母が再会し、家族の絆を取り戻す感動のクライマックス。迫真の演技が観客の涙を誘った

今作は、昭和54年の第4回公演「お月お星の涙」をリメイク。これまでキャストとして多数出演している、細川順子さんが初めて脚色と演出を担いました。市民センターが大規模改修中のため、今回の会場はファンタジー史上初の、みやもりホール。いつもと違う環境に戸惑いながらも、キャスト・スタッフ総勢200人は、心を一つに約4カ月にわたる舞台づくりに励みました。

物語は、江戸時代の宮守町が舞台で、異母姉妹の強い絆が、壊れかけた家族を再び一つにするという美しいストーリー。2幕12場の舞台では、キャストによる迫真の演技が観客の涙を誘い、音楽の生演奏や少年少女合唱隊による情感あふれる歌、効果的な音響と照明が舞台を盛り上げました。フィナーレではファンタジーの歌を全員で合唱。キャストとスタッフが出口で観客をお見送りし、会場は感動に包まれました。

3回の公演はいずれもほぼ満席で、延べ観客数は約800人。みやもりホールでの初公演は大成功に終わり、ファンタジーの歴史に新たな1ページが刻まれました。

みやもりホールらしい臨場感ある舞台に仕上がった

脚色・演出
細川 順子 さん
39歳＝上郷町＝

スタッフ・キャストの皆さんの情熱に支えられ、みやもりホールでもファンタジーの世界を創り上げることができました。客席と舞台が近い同ホールならではの、臨場感ある舞台に仕上がったと思います。観に来てくださった皆さま、本当にありがとうございました！

1＿お星が生まれ、家族の仲むつまじい情景から物語は始まる。この後、家族に悲劇が待ち構える　2＿バレエスタジオのメンバーによる美しい舞が舞台を効果的に演出　3＿地元の「湧水神楽」は秋祭りのシーンに出演　4＿母のサトは、継子のお月を嫌うようになる。狂気を感じさせる迫真の演技に観客は息を飲んだ

5＿今作にも、幅広い年代の役者が出演した　6＿無尽和尚に助けられ、山で暮らしていたお月は、探しに来たお星と再会。和尚は二人で力を合せて生きていくように諭す　7＿出稼ぎから戻り、変わり果てた妻を見て自責する父の助松　8＿姉妹の笛の音と歌声がお殿様を感動させ、二人はお城に迎えられる

お知らせ▷今公演の模様が遠野テレビで放送されます(放送日時…3月19・20・26・27日、15時～・20時～)

お月役
越田 友美 さん
＝遠野高2年＝

客席からの大きな拍手に涙

主役を任されたときは、不安でいっぱいでしたが、たくさんの人に支えられ、3回とも演じきることができました。フィナーレで観客の皆さんから大きな拍手を頂いた時、感動して思わず泣いてしまいました。

お星役
浅沼 未希 さん
＝遠野西中2年＝

楽しみながら演技できた

みやもりホールは客席が近くて緊張したけれど、最後は観客との一体感を楽しむことができました。稽古は厳しく、この4カ月は長く感じましたが、本番は楽しくて、一瞬の出来事のように感じられました。

サト役・お月(幼少)役
平山 仁美 さん
みちる ちゃん
(35歳・5才)＝松崎町＝

次回も親子で出演したい

第30回公演以来の出演で、しかも今回は親子での参加。今までに無い達成感を味わうことができました。昔と変わらない、ファンタジーの雰囲気は心地良かったです。次回も親子で参加したいと思います。